

平成30年3月期 第73期 業績概要 第1四半期

桂川電機株式会社

当第1四半期連結累計期間（平成29年4月～平成29年6月）におけるわが国経済は、円安や株高に加え、企業収益や雇用情勢改善を背景に、緩やかな回復基調が続いてまいりましたが、実質賃金の落ち込みから個人消費の回復は足踏み状況にあり、人手不足の深刻化や海外を含めた政治・経済の動向に懸念があるなど、先行き不透明な状況で推移いたしました。

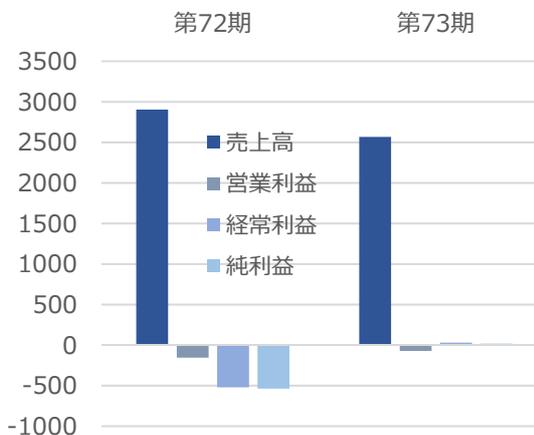
世界経済は、米国経済は大統領の政権運営に不安はあるものの、個人消費が依然堅調に推移し、欧州経済も地政学リスクの高まりのなか、経済は緩やかな回復傾向をたどりましたが、アジア経済では中国の景気減速が続くなど、世界経済全体としては引き続き先行き不透明な状況で推移いたしました。

こうした中、当社グループでは、北米や欧州で好評であった新製品を中心に販売活動を展開してまいりましたが、企業間価格競争の激化は止まらず、日本国内やアジア圏での販売低さも売上伸長を妨げる原因の1つとなり、当第1四半期連結累計期間の連結売上高は、前年同四半期に比べ11%減収の25億66百万円に留まりました。営業利益は、原価低減に向け台湾工場での現地生産及び材料調達の比率を高めコストダウン強化を推進し、また、顧客への早期対応に向けた物流費用等の負担も落ち着き、売上原価・販売費・一般管理費は前年同四半期に比べ低減することが出来ましたが、売上げの減収が影響し、前年同四半期に比べ大きな改善はあったものの73百万円の損失となりました。経常利益は、為替差益1億3百万円を計上したことにより、30百万円の利益、親会社株主に帰属する当期純利益は17百万円の利益となりました。

連結業績概況

＜単位：百万円＞

項目	第72期 第1四半期	第73期 第1四半期
売上高	2,903	2,566
営業損益	△156	△73
経常損益	△522	30
親会社株主に 帰属する 四半期純損益	△538	17



＜単位：百万円＞



※取引通貨レートの数値は、各決算期末日のTTMLレート
【出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティング】

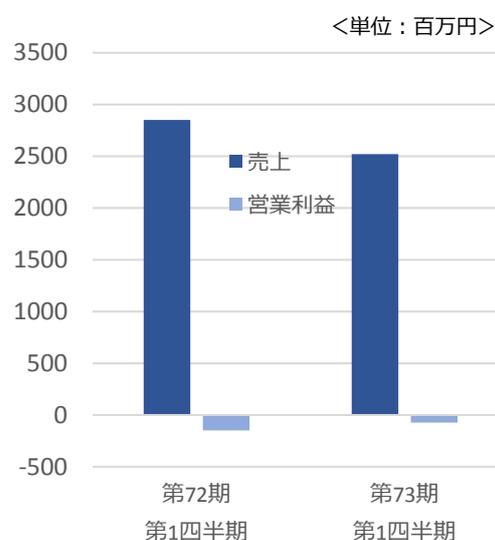
画像情報機器事業

画像情報機器事業の当連結会計年度の連結売上高は、前年度に比べて3億30百万円減収の25億21百万円（前年度は28億51百万円）となり、営業損益は、74百万円の損失（前年度は1億49百万円の損失）となりました。

- ・台湾工場での現地生産及び材料調達比率を高めコストダウン強化を推進
 - ・顧客への早期対応も落ち着き、物流費用等の軽減
 - ・モノクロ機においても新製品の投入により回復の兆し
- 営業損益の大きな改善

<単位：百万円>

	第72期 第1四半期	第73期 第1四半期
売上	2,851	2,521
営業損益	△149	△74



当社グループの強みは、1960年代に開始し、その後継続して現在当社グループの基幹となる電子写真技術応用の複写機、プリンタ、スキャナといった画像情報機器に係る長年にわたり重ね築き上げた良好な経験とスキル、そして卓越した技術力にあります。それを根底にカラーモデルなど今後成長が見込める分野や市場の開発・進出にも積極的に推進してまいります。

今後成長が見込める新たな市場として、現在、シルクスクリーン、インクジェット、ハンドメイドが主流のタイルや食器等（セラミック製品）へのプリンティング技術において、当社が持つドライナー方式は、この業界に変革をもたらすことと確信を持っており、また、この巨大な市場は弊社にとっても将来の重要なマーケットの1つと捉えております。

2017年6月1日～4日、中国最大のセラミック展示会である『セラミックチャイナ2017(広州)』に以下の2機種の新製品を出展致しました。

KIP DDP480：デジタルデカールプリンタ（立体物へのイメージ作成用デカール紙プリンタ）

KIP CP2200：デジタルタイルイメージングシステム（タイルへ直接デジタルイメージを作成）